

令和7年度和歌山県性教育研究協議会の報告

和歌山県性教育研究会
会長 内川 さやか

1 はじめに

和歌山県性教育研究会は令和5年度に設立し、少人数ながらも熱心に取り組む会員が集まり、「性に関する指導の手引」（和歌山県教育委員会）を踏まえた学校における性に関する指導の充実を目指して活動を行っている。

そのような中、本研究協議会は中核となる研修の機会であり、令和7年度は会員を中心に県内の養護教諭等関係者に呼びかけ、講演やワークショップを通して保健教育における個別指導について理解を深め、各学校における性に関する指導の充実を図ることを目的に開催した。

2 開催概要

日時 令和7年10月5日 13:30～16:20

場所 和歌山県民文化会館 中会議室

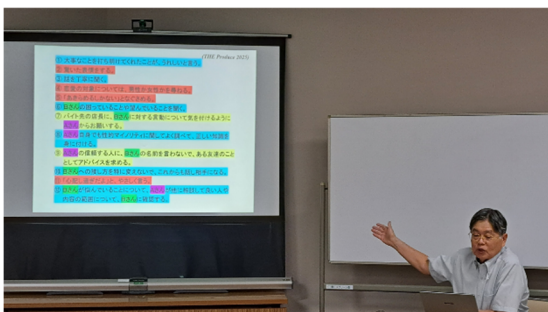
内容 講演・ワークショップ

3 講演

【講師】 全国性教育研究団体連絡協議会
理事長 野津 有司

(1) 性に関する指導を取り巻く最近の話題

次期学習指導要領の改訂作業が進む中で、性暴力・性被害防止に関する指導に注目する発言が見られる。また、こども家庭庁による「プレコンセプションケア推進5か年計画」においては、プレコンセプションケアの普及に係る人材育成として2030年5月までに50,000人のプレコンサポーターを養成することが目標として掲げられており、養護教諭等も対象となっていることが説明された。



(2) 性に関するケーススタディ教材の作成と指導方法の工夫

性に関する指導を行う際、羞恥心や戸惑い等を理由に消極的な態度になる児童生徒もい

る中で、自分自身の経験ではなく架空の人物について話し合うことができるケーススタディは、率直な気持ちや考えを発言しやすくなり、授業への主体的な参加につながるため効果的である。ケーススタディ教材の作成に当たっては、架空の物語の中に、学習のねらいに合ったタネやシカケが含まれており、オープンエンドの物語であること等が留意点としてあげられた。また、ケーススタディを用いた指導を行うに当たって、児童生徒が誤った社会通念や特定の価値観に留まった認識の改善、心理社会的なスキルの向上等を図ることにつながるための留意点についても理解を深めることができた。

4 ワークショップ

性に関する指導の充実のためには、集団指導と個別指導をいかに関連付けていくかが重要であり、学習指導要領を意識しつつ、臨機応変に個別の保健教育を実施することで一人一人の実態に応じた性に関する指導の充実につながる。ワークショップでは、保健教育における個別指導について理解を深めるため、学校種別ごとに分かれて実践案の作成及び発表をし、野津理事長から改善のポイント等の助言をいただいたことで、進め方や保健指導・健康相談へのつなげ方について具体的に理解することができた。



5 おわりに

講演とワークショップを通じて、学校における性に関する指導を充実させていくための方法について理解を深めることができた。

今後は、会員それぞれの実践を踏まえて、互いに学び合える研修会にさらに活性化していきたいと考えている。